

---

# 上下に動く箱

柳田 龍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

上下に動く箱

### 【Nコード】

N9037F

### 【作者名】

柳田 朧

### 【あらすじ】

マンションは閉鎖された空間。その中のエレベーターは、箱の中の箱。

小さい頃、エレベーターって奴に乗るのが怖かった。おまえもそうじゃないか？

なんていうのかな。あの一瞬地に足ついてない、不安定な感じ。重力からの解放じゃなくて、なんだか違う世界に向けて放出される、不安感があったんだ。もちろん、親と乗る時はさほど怖くもなかったんだけど。

ホラー映画のワンシーンで、上がってくエレベーターが一瞬、階を通り抜ける時に毎回外に同じ人が立っている、ってのがあったじゃないか。あれを見てからはさらにエレベーターに乗らなくなつたよ。知らない人が乗ってる時なんか絶対乗らない。健康第一、階段がいい。

でも階段っていうのもクセモノでさ、曲がろうとする時誰かにぶつかりそうになるのが怖いんだ。それは知らない、危ない人かもしれない、っていうのもあったんだけど。

ぶつかった反動で塀を乗り越えて、下に見える寒々とした駐車場のアスファルトに叩きつけられる想像をしちゃうんだよ。だからゆっくり降りるんだけどさ、そうすると怖い妄想が加速してくんだよ。いや、ま、要するに俺は高いところが苦手なんだよな。遠い景色に速い風。遙か地上は呼んでいる。ってさ。

何から話し始めたんだっけか？ ああ、そうそう。覚えてる覚えてる。そう怖い顔しないでくれよ。マンションの管理人なんて仕事も退屈なんだ。これで管理人室が一階になかったら、すぐに辞めて

るよ。それにしても、おまえの訪ねてきた家の人、帰りが遅いな。

このマンション？ 怪談話は特に無いよ。螺旋階段の柵も最初からついてたし、別に自殺者が多かったからじゃない。エレベーターで見知らぬ男と会う、なんてのもない。……別にもう俺もエレベーターが怖くは無いよ。いい歳だしな。

ただ、地下駐車場でなんか嫌な臭いがするっていうのは聞いたことあるかな。エレベーターで上がる時とか。ひよっとして、なんか怪物でも住み着いてんのかな。はは。地下迷宮、みたいな。

そうそう、この前久々にねずみを見かけた。この都会でも案外、居るところはあるんだねえ。ただ、それが住人の部屋に出たみたいでさ、ゴミの袋の中に死骸が入ってたんだ。建つて間も無いのに、もうゴキブリやらねずみやら出るのか……一種の欠陥住宅なのかな。

ゴキブリ、おまえも好きじゃないよな。出るんだよ。この部屋にも。試しに捕まえて、ギネス記録挑戦してみるか？ 口の中に生きたままゴキブリを入れて、十秒耐えるって奴らしい。口に入れる数が多ければ多いほど優秀な記録。都市伝説だからであつたな、胃袋にゴキブリが入って卵を産んで、それが体を食い荒らすって奴。

虫嫌いは治ってないみたいだな。俺も高所恐怖症は治ってはいないよ。うーん、ゴキブリもエレベーター使う時代なのかねえ。最上階の十五階でも、ゴキブリ、出るみたいだ。そういえば、ねずみはともかくゴキブリってのはずっと昔の太古の頃からほとんど形態が変わってないらしい。

でもこの時代は人間が余りにも環境を変化させすぎたから、ひよっとするとゴキブリも形態が変わるかもしれないんだって。巨大化

して十五センチくらいになったり、鳴き声を上げたりするかも。ねずみも実際、肥え太ってんのかこの前見た奴は大きかったよ。何食ってんだろうな。

悪い悪い。怒るなよ。そういえば、なんでおまえここに来たんだけ？ .....へえ。彼女の家の掃除か。ここに住んでるんだな、意外な縁だ。もしかしたらそれ、案外ゴキブリ退治とかをばかして言ったのかもしれないな。

ははは、安心しろって。十五センチサイズのが出たら俺が駆除に行つてやるから。強力な殺虫剤も持つてるしな。たしか、地下駐車場の備品入れにあった。今から取りに行つておくか。

おいおい、さっきの話気にしてるのか？ 駐車場に大型肉食クリーチャーが居るわけないさ。さあ、行こう。

外は雨だな。ここも空気が湿気ってる。

？ おい、なんだ、あの車の下から広がってる液体……冗談だよ。ただの雨水だ。こう薄暗くて湿気った空気だと、なんだか何もかも嫌なものに見えてくるな。実際、俺もさっき階段を下ってる時、後ろのおまえが殺人鬼だったらどうしようとか思ってた。狭いところって、逃げ場無いからな。怖い妄想が広がる。

ほら、これ。殺虫剤じゃかなり強力な奴だ。これを吹きかけて殺せないときは、ライターの火にスプレーして簡易版火炎放射器にしないといい。さすがに火には弱いだろうからな。

おっと、早速現れた。小さいけど、すばしこいから練習にはいいんじゃないか？ ちょっとやってみればいい。あ、外した。もっと先の動きを予測しないと。またダメか。ちょっと俺に貸してくれ。

っよし。これでおしまい。放っておくと住人のみんなに何か言われるだろうし、ちりとりで片付けておこう……うわっうわっ！ なんだ、肩に乗ってる！ 弾き飛ばしてくれ！ くそっ！ 天井から落ちてきやがったのか、このゴキブリ。踏み潰してやる。

なんだ、二匹も一度に見つけるなんて。これはいいよ、おまえの今日の仕事はゴキブリ退治の線が濃厚になってきたな。……この世の終わりみたいな顔してるな。冗談だよ、気にするな。最近はこのゴキブリを見かける人が多いんだ。何か、食べかすでも転がってるのかな。

さて、上に戻る。そろそろ、おまえの彼女も家に帰ってきてるかもしれない。？ ああ、それはカメラだよ。防犯上の理由でエレベーター内部の様子が見えるように、各階のエレベーターホールに設置してあるんだ。ほら、別にコート着た怪しい男なんて映ってないだろ？

え？ 今映ってるの、おまえの彼女か？ なんだ、上の階に用事だっただけか。彼女の部屋、一階だろ？ こっちの方が戻るのは早い。行こう。……どうしたんだ？ 様子がおかしい？

……確かに。かちかちと何回もボタンを押してるみたいだな。ひよっとして、緊急事態か？ ならなおさら早く戻らなくちゃあれ？ 彼女、画面からいなく、

ぐじゃっ。

.....。

.....なあ。

.....今、画面で、彼女の、乗ってた、エレベーターの、床が、抜けた、けど。

.....俺たちの今居る、このドアの向こうから、聞こえた音。  
なんだ？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9037f/>

---

上下に動く箱

2010年10月15日23時29分発行